

計画全体について

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
1	<p>基本理念のもと、住み慣れた地域で生き生きと安心して暮らしていける地域社会の形成のために5つの柱から取り組んでいこうという内容なのですね。</p> <p>ずっと読んでみて、今やっていることへの強化と、その位置づけを書いたもののように感じ、宇治市は何を重点にしているのか、どこに問題意識を持ち対応しようとしているのかのポイントがわかりにくかったです。結局、どの部分もほどほどにやっているのをそれを第9期介護保険事業計画として少し強化したいというふうに捉えました。当たり障りなく優等生の計画に感じました。プロの方がまとめたのですか？</p> <p>人口も多く、結局万遍なくサービスや取り組みをしていくしかないのが現実なのかもしれません。できれば宇治市らしいユニークな取り組みがあるといいかもしれません。少し報酬を出して高齢者自らが動いていくようなものがあればいいかもしれません。そうした斬新なものがほしかったです。</p> <p>この町に住んでいて良かったという計画を期待しています。</p>	<p>本計画では、将来起こりうる問題を解消するために必要な取組みを5本の柱、14の施策に体系化しています。複合的な社会問題や地域課題に対応するため、様々な取組を実施していく必要がありますが、その中で特に推進すべき取組を重点取組施策として位置付けています。</p> <p>いただいたご意見を参考に、高齢になっても、主体的に活動することができるような、多様な取組の支援につきましても、検討を進めてまいりたいと考えております。</p>	無
2	<p>計画案としてはデータやアンケートから導き出して、方向性を示したものとしてはよくできていると思います。しかし、向こう3年間の目標としては、その実現性について疑問に思わざるをえません。それは時間と優先順位の考え方・具体的な進め方の記述が少ないからだと思います。計画案では「誰が・いつ・どうやって」に「人・物・金」の裏付けがないものが多く、実現するか疑問です。</p>	<p>本計画では、将来起こりうる問題を解消するために必要な取組みを5本の柱、14の施策に体系化しています。また、その中で、特に推進すべき取組を、重点取組施策として位置付けています。具体的な時期や財源の裏付けなどについては、各年度の予算編成に基づくこととなりますので、計画には記載しておりませんが、全体の方向性、ビジョンとして示したものとご理解いただきますようお願いいたします。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
3	<p>計画案にある高齢者対象の事業を進めるには、地域福祉と生活支援の両面から考える必要がありますが、計画案では地域福祉の視点での記述が見受けられません。各小学校区以下の小地域コミュニティが、高齢者にとっては地域福祉を実感できる場所です。介護保険の生活支援体制整備事業の担い手として「生活支援コーディネーター」に地域福祉も担当させるのであれば、それなりの庁内の組織体制や生活支援コーディネーターの位置づけをしっかりとする必要があります。特に地域福祉では地域包括支援センターは指定管理者で、生活支援コーディネーターは福祉サービス公社と社会福祉協議会への委託の形態で計画を実施することになると思いますが、成果に対しての責任を持たせられない体制では、宇治市の本気度が問われます。</p> <p>「認知症にやさしいまち」「健康長寿日本一を目指す」ならば、行政と地域と個人の結びつき方を考えて、計画の実現への取り組みを進めて頂きたいと思います。</p>	<p>地域福祉につきましては、令和3年度に第3期宇治市地域福祉計画をとりまとめており、本計画は、その中の高齢者福祉に関する分野別計画として、策定するものでありますことから、地域福祉の視点につきましては、記載を省略いたしております。</p> <p>宇治方式地域包括ケアシステムの推進においては、地域の実情に応じた、地域の支え合い・助け合いの体制づくりが不可欠と考えており、生活支援体制整備事業を進めるにあたり、より身近な地域で取組が進められるよう、生活支援コーディネーターの活動に重点を置いております。それぞれの担い手は、宇治市福祉サービス公社と宇治市社会福祉協議会に委託し、地域包括支援センターは社会福祉法人等に委託しておりますが、宇治市も企画・検討段階から連携し、住民や住民組織、関係団体とともに地域の困りごとを我が事として捉えた支え合いの仕組みづくりに取り組んでまいります。</p>	無
4	<p>高齢者にとって至れり尽くせりの内容と思われるのですが、この計画を実行移すにはそれ相応の資金が必要だと思えます。私は福祉や介護は全くの素人で知識はありませんが、令和4年度で保険給付費が約150億円かかっている、将来は数年で200億円突破するでしょう。</p> <p>令和5年と比較しても年々人口の減少が予測され、さらに令和22年には65才以上の高齢者が38.3%まで増加が予測されています。困窮や介護を受けている高齢者には、金銭及び人的支援が必要ですが、年々税収入は減少する傾向なのに計画達成は可能だろうか。</p> <p>宇治市の財政収入を増やすには、先ず「入るを量って、出ざるを制する」『出典・礼記』以外はありません。つまり、収入を正確に把握して、それに応じた支出計画を立てること。市も人口減少傾向にあるので、人口を増やす計画と中小企業を発展させる為の計画も必要です。</p>	<p>ご意見のとおり、本市におきましても、人口減少、とりわけ少子化や生産年齢人口の減少が課題であると認識しており、生産年齢人口の減少により、税収等も減少してくることが懸念されます。</p> <p>そのような中、まちづくりの最上位計画である「第6次総合計画」をはじめ、「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等に沿って、人口減少及び少子高齢社会への迅速かつ的確な対応と、宇治市の特色を活かした施策の実施により、持続的に発展するまちを目指し、各取組を進めております。</p> <p>特に、ご意見をいただいております、人口の増加や中小企業の発展については、上記計画をはじめ、子育てにやさしいまちの実現に向けた取組の推進や、「宇治市産業戦略」に沿った産業振興を進めるなど、全庁を挙げて取り組んでおります。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
5	ビジョンについてはよく理解できました。肝心なのは、計画倒れにならず実施、課題の中で緩急を判断、順次を実現していく必要があると思います。なかでも介護医療と孤立防止施策が今後の重要課題かと…。能登地方で度々地震が発生しているにも関わらず地震対策計画の手遅れによる被害拡大、避難所不備、実態把握問題等、不手際が生じている。	ご意見のとおり、計画が機能し、目指すべき姿を着実に実現していくために、関係部局や関係機関と連携しながら取組を進めてまいりたいと考えております。	無
6	今や人生100年時代と言われるようになってきた。しかしながら平均寿命と健康寿命にはまだ差がある。これらの調査・データ・検証に関して丁寧に調査されていると思う。 今後高齢者の割合が増え、老々介護も増加していくものと思われる。健康寿命を延ばすために、本事業の認知度と普及を図る必要がある。それには更なる共生社会を目指し、支援センターを中心として、例えば民生委員や地域の町内会の協力を得ながら住民の人々にもっと事業の中身（具体策）を知ってもらうことが重要と考える。	本計画においては、施策を市民のみなさまに理解していただくことが目標達成のために必要不可欠と考えています。市政だより、「かいごほけんだより」、ホームページ等のほか、「介護保険出張講座」等を実施することにより、市民の皆さまの主体的な参画に繋がるような周知・啓発に努めてまいりたいと考えております。	無

## 第1章 計画策定にあたって

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
7	2ページの計画体系の中に「地域福祉活動計画」を記載すべき。地域福祉の推進に取り組むための実践的な計画として今後も特に注目されるべき計画であるため。	地域福祉活動計画は、本計画の上位計画と位置付けている地域福祉計画に関連する社会福祉協議会の活動計画であり、本計画とも関連することは認識していますが、スペースの関係上、上位計画に関連する各種計画までは記載できないため、省略しています。	無

## 第2章 宇治市の現状と課題

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
8	<p>26ページの「評価指標」とは誰が評価したものなのか、ポイントの出し方など具体的な説明がなく、記載の表は市にとって有効な項目のみ表記されているのではないかと疑心暗鬼に映る。</p>	<p>ご指摘の評価指標、ポイントの算出方法につきましては、厚生労働省のホームページ「保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の集計結果について」において掲載されている数値から、宇治市、京都府、全国に関する数値をすべて引用しております。</p>	無
9	<p>28ページの「市で課題となっていること」について、分析が不十分なのか記述が不十分なのか分かりませんが、より詳しく分析し、その結果（課題）を詳細に書く必要があると思います。例えば、地域包括支援センターの人員等のさらなる体制強化とありますが、これは対策であって課題ではありません。課題として書かならば、どのような分野、能力の人材が何人足らず、このため〇〇業務に支障をきたしている、といったように書くべきでしょう。</p> <p>次の地域密着型サービス事業者の公募不調についても、不調の主な原因と不調によって生じている問題を具体的に記述すべきでしょう。</p>	<p>宇治市において解消すべき課題として認識している事柄については、市内部において細かく分析し対応の方向性を検討してありますが、計画第2章28ページに記載するにあたっては概略的に記載しています。</p> <p>また、公募不調に関しましては、課題ではなく解決すべき問題の記載となっていましたので、全体の整合を図るため「地域密着型サービス事業所の着実な整備」に記載を改めます。</p>	有
10	<p>JR及び私鉄が市内を網羅し、バスも含めて公共交通機関が府内南部においても充実していることを記載すべき。また、マクロの視点で京都府内における位置づけなどを掲載してもよいのではないかと。</p>	<p>ご意見の内容は、本市の地理的特徴として本市の最上位計画である総合計画において記載されていますが、各分野別計画への記載はしていないため省略しています。</p>	無
11	<p>28ページの社会的な問題について、スマホを活用できる高齢者の増加については、デジタルクーポンなど拒絶している高齢者もたくさんあり、国が推奨する「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を」ということに対する課題を表記してはどうか。</p>	<p>現在スマートフォンを活用できていない高齢者も一定数いらっしゃることは把握していますが、スマートフォンを活用するようになった割合が増えていることを多様な社会参加につながるチャンスとして捉えています。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
12	28ページの消費生活問題について、宇治市では消費生活出前講座など積極的かつ有効な取組を進めているにも関わらず、特殊詐欺被害が増えていることを記載してはどうか。	特殊詐欺など高齢者が狙われる犯罪のリスクについては、社会的な問題「8050やヤングケアラーなど社会問題の複雑化」に内包しています。個々の課題をすべて記載することは困難ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。	無
13	28ページの市で課題となっていることについて、地域コミュニティの希薄化が進む要因のひとつとして「自治会未加入者の増加」を記載してはどうか。	町内会をはじめとした旧来の地縁団体の組織率の低下は、全国的な問題とされていますが、本市では住民の地域づくりへの関心度が増加傾向にあり、また地域を暮らしやすくするための協議の場である第2層協議体の活動も増えつつあることから、「市で充実していること」と捉え、さらに取組を拡げていきたいと考えています。	無
14	28ページの表の市で課題になっていることの欄の最上段に「地域包括支援センターの人員等のさらなる体制強化（業務負担軽減と相談機能強化）」と書かれていますが、その対策、例えば8つの地域包括支援センターの人員配置増の為に財政的な補助を増やすとか具体策が施策の中に見当たらなかった。	70ページ、施策9のアクション2「地域包括支援センターの相談体制強化」として、地域包括支援センターを中心とした、高齢者を取り巻く複合的な課題解決に向けた機能強化を図ってまいりたいと考えております。	無
15	<p>現在西小倉地区在住であるが、凡そ50数年を経るにつけお多分に洩れず高齢化の一途の憂き目を見ている。</p> <p>資料によれば、西宇治地域は高齢化率32.9%、要介護・要支援認定者数1,808人であり、その内要介護3～5は507人と他地域と比較しても高歩留まりをしている。実質センターへの要請係数は前述のとおりであるが、「隠れ該当者」とでも言うのでしょうか申請未了の者も少なからずいるものと思料いたします。</p> <p>主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師などの専門職がより積極的な連携を取り訪問等により具体的な相談を受けて欲しい。</p>	<p>地域包括支援センターにおいても、相談に応じて訪問等による対応も実施しているところですが、いわゆるアウトリーチによる相談対応については、十分とはいえない状況にあると考えております。</p> <p>今後、後期高齢者数が増加し、地域で困りごとを抱える方も増加してくる可能性が考えられますことから、多様な主体が連携しながら地域の課題を解決していくネットワークの構築が必要であると考えております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
16	27ページの「介護現場の生産性の向上」とは具体的に何を指すのか知りたい。	「介護現場の生産性の向上」については、限られた人材で安定的なサービスを提供するために、例えば介護事業所で介護ロボットやICTの活用等を進めていくことを指しています。80ページの施策13 介護人材の確保・定着・育成でも記載のとおり、京都府等の関係機関と連携しながら課題解決に取り組んでまいります。	無
17	第8期計画の進行状況、評価はどうかと思いネットで「長生きがい課」を検索しましたが、進行状況や評価が見つかりません。（長生きがい課に電話で確認すると、推進協議会の評価ということで3点の自己評価は確認できましたが、自己評価でいいのでしょうか？当然自己評価は甘くなると思います。）受けている人（受益者）の評価は把握できているのでしょうか？	毎年度の評価につきましては、予定していた取組を実施できたかどうかの自己評価としています。「住民のみなさまがどのように感じているか」につきましては、3年に一度の計画策定年度ごとに、アンケート調査により把握いたしており、そのアンケート結果などを踏まえ、次の3年間の取組の方向性を見直すこととしております。	無

### 第3章 基本理念と基本施策

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
18	36ページの目指すべき姿について、「不安を感じたときにすぐに相談できる事業所・施設や専門職がいる」ことを追記してはどうか。	ご指摘の「不安を感じた時にすぐに相談できる人がいる」の先にある姿として、「在宅での生活が継続できている」状態や「家族介護者等の身体的・精神的負担が軽減されている」状態であると考えています。	無
19	「目標値」について、令和8年度について値として具体的な数値を入れるべきで、数値を記載しないのであれば「目標」とすべき。また、視覚的効果を示すのならば（→、↑）なども有効ではないか。	「成果指標」については、具体的な数値を入れることが望ましいですが、3年後という近い将来の姿として、根拠ある数値設定も難しいため、「増加」、「低下」という表記にとどめています。 矢印については、内部において検討しましたが、高いほうが良い指標と低いほうが良い指標とで混乱を招く可能性があるため、文字による表記としています。	無
20	基本理念や5本の柱に伴う14の施策等によく出来ていると思いますが、それを現在の後期高齢者等にいかに知らしめ、理解納得させて参動させるかが一番重要ではないでしょうか。	本計画においては、施策を市民のみなさまに理解していただくことが目標達成のために必要不可欠と考えています。市政日より、「かいごほけん日より」、ホームページ等のほか、「介護保険出張講座」等を実施することにより、市民の主体的な参画に繋がるような周知・啓発に努めてまいりたいと考えております。	無
21	高齢者の積極的な社会参加やフレイル、介護予防のための情報提供回数、令和5年度12回になっていますがそれを16回～20回に増やすこと。	「生きがい探しのすすめ」に関する情報提供につきましては、令和8年度に向けて、令和5年度の12回を上回ることを目標に取り組んでまいりたいと考えております。	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
22	<p>今後日本の社会は高齢者（後期高齢者を含む）が益々増え、一方生産年齢人口は急減していく状況です。地域包括ケアシステムの概要を拝見致しましたが、今後特に介護、医療、一人住まい対策など、どれをみても非常に大切で、必要な事と思われませんが、巨額の集金、対応する数多くの人材が必要で、今後の出産年齢人口の減少を考慮すると、かなり困難であり、若い人の負担、これからの夢を奪いかねない恐れがあると思います。高齢者の前向きな生き方、自助・自立的な認知症対策からも、高齢者自身の前向きな社会参加の中、充実を重視する方法を検討されてはどうですか。</p> <p>宇治市の各自治区にある公民館、集会所等の既存の施設の活用、地域のコミュニティの再利用（復活）、高齢者の自主的な参加、サークル活動、自立重視、好きなことのグループ活動、サークル活動、運動、体操など、元気な高齢者になるべく長く元気で過ごせることを重視して、行政は手続き、助言、アドバイスなど、なるべく自主自立を重んじ、今ある施設の活用を重視し、過大な行政負担を軽減しては、と思います。</p>	<p>計画の基本理念である「すべての高齢者が住み慣れた地域において、健やかに、生きがいを持って、安心して暮らすことができる地域社会の形成」を達成するためには、社会的役割と生きがいを持って生活することが大切だと考えております。</p> <p>いただいたご意見を参考に、皆様がより身近な場所での活動や社会参加を通じて生きがいを見出し、その人らしい生き活きた生活を送っていただけるよう、機会や場所を含め、取組について検討を進めてまいります。</p>	無
23	<p>要支援・要介護認定を受ける方は年々増加しています。でも8割近い高齢の方は元気に過ごしておられ、そういった元気な方への予防施策が抜けているのではないかと思います。</p> <p>公民館は高齢者のためだけにあるものではないですが、高齢者の社会参加による介護予防とフレイル対策の推進に大きな役割を果たしているのは事実なのではないでしょうか。本計画に公民館の役割を位置付けるよう再考して下さい。</p>	<p>高齢になっても、特技を活かして社会参加し、社会的な役割を持つことで生きがいある生活を送ることが、介護予防につながると考えており、本計画においては、施策5『生涯現役社会の構築と積極的な社会参加による介護予防の推進』につきましては、重点取組事項と位置付け、取組を推進していきたいと考えております。</p> <p>また、その活動における拠点については、公民館等の公共施設に限らず、ご自宅や公園、お近くの民間事業者の空きスペース活用等、より身近な場所で、身近な人と、多様な拠点づくりを支援してまいりたいと考えております。</p>	無
24	<p>35ページ柱2「公共施設に限らず、身近な場所をつなぐりを…」を「公共施設と共に」に変えた方が市の意気込みが伝わると思います。</p>		



No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
25	<p>柱1の中で、「在宅生活の支援の充実」は重点取組施策にしてほしいです。8割近くの高齢者ができる限り長く今の状態を保てるようにするには家にこもらずお出掛けするのが何より効果があると思います。「住民主体による助け合い交通実施団体への支援」といった消極的な姿勢ではなく、行政が主体となって高齢者の移動プランを練って盛り込んでください。</p>	<p>高齢者の移動の課題については、お住まいの地域やおひとりおひとりの健康状態などによって課題やニーズも多種多様であることから、画一的な制度により解決していくのは難しい状況にあります。</p> <p>そのような状況の中、地域において住民主体で助け合う仕組みを作ろうと話し合いをされている団体等に積極的に出向き、外出支援、生きがいづくりの支援を実施しており、今後も住民の皆さまと一体となって取り組んでいきたいと考えております。</p>	無
26	<p>34ページ柱4「地域ネットワークの充実」の最下段「有事の際に」という表現がありますが、「災害・感染症発生時」に変えてほしいです。有事という表現は適さないと思います。</p>	<p>ご意見を踏まえまして、「災害・感染症発生時に隣近所で助け合える関係性の構築」に表現を改めます。</p>	有
27	<p>35ページ柱2「社会参加による介護予防とフレイル対策の推進」では、高齢になっても就労や就労に準ずる活動、趣味などの活動…」とありますが、「学びや健康、趣味などの活動」にしてほしいです。</p>	<p>ご意見を踏まえまして、「高齢になっても、就労や就労に準ずる活動、学びや趣味などの活動を通じて社会や地域と多様な形でつながり活躍する「生涯現役」を支援」に表現を改めます。</p>	有
28	<p>69ページ「わたしのアクション」の中の「本人」の4項目目、「虐待となる行動をしない・されないよう心がける」は不適切だと思います。「虐待を受けたら相談する・通報する」が正しいのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえまして、「虐待となる行動をしない。もし虐待を受けた場合には早期に相談、通報する。」に表現を改めます。</p>	有
29	<p>48ページの成果指標に、なぜ就労している高齢者の割合があるのでしょうか。しかも目標は増加だと。私の感覚では高齢になっても働き続けるのは働かないと生活が成り立たない、今は大丈夫でも先が心配だからという側面も大きいのではないかと思うのです。生活不安の増大を孕んだ高齢者の就労割合の増加は果たして好ましいのでしょうか。</p>	<p>社会参加による生きがいづくりの中には、「働き続けたい」「地域の役に立ちたい」「さらに教養を深めたい」など、さまざまなニーズがあると考えております。</p> <p>その中でも就労し続けることは、社会的な責任も強く、より健康的であることが必要であり、「健康的な高齢期を迎えている」という成果を図るための指標として設定しております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
30	<p>ごみ出しに困っておられる世帯は多いので、ふれあい収集の事業は大変ありがたく、今後も継続して頂きたい事業の1つです。</p> <p>高齢者人口及び要介護・要支援認定者数の推計や居宅サービスの見込み量を見ている、年々数は右肩上がりなので、施策6や7がより重要になると考えます。</p>	<p>今後も、介護予防・生活支援サービス事業の充実に向けて、地域の実情を踏まえた多様なサービスの創出に努めてまいりたいと考えております。</p>	無
31	<p>個人的には、高齢者の人ももっと外に出て運動（散歩や太陽を浴びる事等）を行い、骨粗しょう症防止を心掛け寝たきりや認知症にならない様にする等と呼びかける、更に、「宇治市の災害時安否確認ボード」の様なボードを時々家の前に提示してもらえよう対応が必要と考える。そして、元気でいたい、若くいたい等の意欲を引き出す事も考えられる。</p>		無
32	<p>地域における認知症との共生について、色々な形で宇治市は進んでいるようには思いますが、現実認知症の方を色々な活動に参加させてあげたいと思ひ、お誘いしますが、行く交通手段がなく、車に乗る事も出来ず、結局参加出来ないことが多いです。認知症の人の会等の時、参加出来る様に何か手立ては無いですでしょうか。その時だけバスを回して頂けるとか、社会参加すれば、もう少し気持ちも変わってくる様に思ひます。</p>	<p>施策8 地域における認知症との共生では、認知症バリアフリーの推進といたしまして、支援者の集まりであるチームオレンジを設置し、より身近な地域において認知症カフェを実施するなど、認知症当事者の方が社会参加できる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。</p>	無
33	<p>施策体系の柱④地域ネットワークの充実で、「権利擁護の推進」として成年後見制度及び利用支援事業の適切な案内と対応をされるということですが、利用促進のためもう少し具体的に取組を記載し、成年後見の取組の充実をしていってほしいと思ひます。</p>	<p>ご意見を踏まえまして、74ページ アクション1の説明文を「成年後見制度が適切に活用されるよう、制度への認知を高める取組を進めるとともに、中核機関の設置を検討し、権利擁護体制の充実を図ります。」に修正いたします。</p>	有

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
34	<p>将来的に介護要員が不足することが明らかである為、介護スタッフの給与等の向上を図るべきで、行政は一定の人員の確保ができた団体や法人等に補助金を支給する制度を設けるのはどうでしょうか。介護要員を増加させることにより家族等の介護を極力減らし、労働人口の減少を避けることが、経済活動を維持する上でも必要と思われる。</p>	<p>介護人材の確保・定着・育成に向けて、介護職の魅力の発信や就職フェア等の開催の取組みを進めるほか、ご意見いただきました内容も含めて、様々な対策や事業を今後検討してまいります。</p>	無
35	<p>生産年齢人口が減少する中で、2040年には介護職70万人が人材不足とされている。施策13では、目標値が「維持・低下」とあり介護人材の確保・定着では市の独自策が見えない。国施策と同様に「ICT等の導入」との提言があるが、必要なのは事務の効率化だけでなく、介護人材の確保を工夫している事業所などの紹介（外国人や高齢就労者）や事業者間の情報交換。市として人材確保のために事業所の就労祝金助成（2年間の就労期間義務）などの支援策を発表してはどうか。</p> <p>また、京都文教大学と提携をして、高齢者アカデミーや社会人を対象にした介護資格取得セミナーを開催してはどうかと考える。</p>	<p>介護人材の不足という課題は、全国レベルで検討すべきものであり、国・京都府等の関係機関と連携しながら課題解決に取り組んでまいります。</p> <p>その上で宇治市独自策として、介護職の魅力向上につながる効果的な情報発信の方法を検討し、積極的に実施してまいりますと考えております。また、京都府における介護分野就職支援金貸付事業等の活用もいただきながら、人材確保を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見も含め、より多くの方に介護について関心を持っていただけるような取組を検討してまいります。</p>	無
36	<p>施策6・7にある介護予防推進のなかで、多種の自主グループが公共施設を利用しながら活動している。（市社協のBリハを除く）しかし同じ顔ぶれの人が各グループを移動しているようにも見える。より多くの方が参加できる方法や、介護予防（健康）教室に参加すれば買い物ができるポイント制度も検討する段階に来ているのではないかと。</p>	<p>積極的に自主グループ活動を広報したり、参加希望者がいれば積極的に受け入れていただけるような支援をしたり、活動が広がっていくよう取り組んでいきたいと考えております。ボランティアポイント制度については、「実施したかどうか」の確認に多くのマンパワーが必要となることから、現状導入の検討はしていませんが、より多くの方に健康習慣が定着できるような取組は検討してまいりたいと考えております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
37	<p>介護予防事業参加者への介護予防手帳が796冊と少ないように見える。宇治市発行の『生きがい探しのすすめ』のグループ数からいえばもっと多いのではないかと思える。この冊数の根拠について知りたい。</p>	<p>介護予防手帳の配布は、「健康倶楽部」などの事業参加者に対して配布しています。より多くの方が日常の健康状態を把握し、健康維持・増進のお役立ちいただけるよう、配布方法については検討してまいりたいと考えております。</p>	無
38	<p>高齢者の貧困問題、また8050（介護ネグレクトともいわれる）や高齢者虐待、ヤングケアラーへの課題対策が社会問題として記載されているが、市の課題にはなっていない。市が把握できず表面化していない家族もあるのではないかと。多職種間連携で、しっかりと情報把握と解決につながる体制を作ってほしい。</p> <p>宇治方式地域包括ケアシステムについては評価しているが、施策1の推進で、日常生活圏域（8圏域）ごとに、介護系の各事業体の代表者や職員間との垣根を越えて交流や情報交換も必要と思われる。市の施策として推進していただければと思う。</p>	<p>ご指摘の問題につきましては、高齢化だけでなく晩婚化、少子化に伴う社会問題として、全国レベルで懸念されることであるため、市の課題ではなく、社会問題として整理しておりますが、他業種連携による地域課題を解消するための体制構築については、積極的に取り組んでいく必要があると考えております。</p> <p>また、これまで横のつながりが少なかった介護事業所の交流や情報交換などについても、今後必要となっていくと考えております。</p>	無
39	<p>基本理念に挙げてある通り、在宅で安心して暮らしたいと思いますが、健康で自立した生活が出来る間は地域とのつながりを持ちながら暮らせますが、病気などのため介護が必要になったとき、看取りなどの具体的な姿が想像できません。介護保険での対応、在宅医療などの対応について情報が少ないと感じています。ケース毎の具体的な介護保険の利用の仕方、在宅医療の利用の仕方などの情報を得られる機会を設けていただければ幸いです。</p>	<p>安心して介護サービスを利用していただけるよう、『わたしたちの介護保険』等、介護保険サービスの利用の流れ等を掲載した冊子を作成しています。</p> <p>また、地域の医療・介護サービス等の情報を把握・集約した「ココカラまるごとねっと」により、市民のみなさまに適切な情報を提供しておりますので、それらを市民のみなさまに知っていただけるよう、広報にも努めてまいりたいと考えております。</p>	無
40	<p>防災会との連携がうたってありましたが、防災会で把握している要配慮者の情報が消防と共有できていません。</p>	<p>市・危機管理室において、要配慮者の情報を受け付けておりますので、把握している要配慮者の情報がございましたら、情報提供をお願いいたします。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
41	<p>第9期の事業計画の内容は豊富であり、基本理念は理解できますが、基本施策に留まっており、具体的な明示がされていない感あり。どこで誰が何をするのかといった具体策がないと成果の確認ができないし、評価が困難と思います。（この施設で、或いは各家庭任せで、市民(高齢者)個人の意識付けに頼る傾向にならないかとの疑問あり。）</p>	No.2に同じ。	無
42	<p>コラムは不明点の解消に役立ちました。理解への補助に多用いただければ有難いです。</p> <p>【同様のご意見計2名】</p>	<p>今後も、本市の考えや施策等を市民のみなさまにご理解いただくため、分かりやすい情報提供に努めてまいりたいと考えております。</p>	無

## 第4章 介護保険事業に関する見込み 介護保険料の考え方

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
43	<p>93ページ地域密着型サービスの見込み量の確保について、認知症対応型通所介護では東宇治南圏域を、認知症対応型共同生活介護では東宇治南・北宇治・西宇治圏域を整備優先日常生活圏域に定めていますが、その定めた根拠を知りたく思いました。圏域別要介護・要支援者人数は西宇治が最も多く、次に中宇治、南宇治と続いているのに優先圏域とされないのはなぜか疑問に思いました。</p>	<p>認知症対応型通所介護は、8期計画期間中に東宇治南圏域で廃止した事業所があるため、整備優先日常生活圏域として定めています。認知症対応型共同生活介護は、圏域別の要介護認定者数に対する定員の割合が低い圏域を優先して、整備する圏域を定めています。</p>	無
44	<p>これから先、要介護者の増加と少子化による介護スタッフの要員不足が顕著となります。そんな状況下では在宅より施設に入所しての介護のほうが格段に介護効率が高いと思われます。それにより、今より多くの介護施設が必要となりますが、廃校となった学校や、学生が減少し、余剰となった教室等を利用するのも一案かと思えます。大きな施設でなく、小学校区単位等で小規模の施設を数多く作るのはいかがでしょうか？</p> <p>介護スタッフの手をそれほど煩わせない介護状態のときは、在宅介護を行い、在宅介護を継続できる「在宅限界点」を越えたら速やかに介護施設の入所できる仕組みの構築も必要です。在宅限界点の見極めから施設入所までの手続きは地域包括支援センターにそれなりの権限を与えるのも良いかと思えます。</p>	<p>アンケート結果で自宅での生活を希望される方が多数おられることから、第9期計画では訪問系・医療系サービスなど在宅生活を支えるサービスの整備を進めるとともに、在宅生活が困難な方のため、認知症グループホームの整備や介護老人福祉施設について増床等により供給量を図るなど、総合的な観点で、介護が必要となっても住み慣れた地域で生活し続けるための体制を推進してまいります。</p> <p>また、介護予防・健康づくりの習慣化の推進など要支援・要介護者の増加を抑制する取組を同時に推進することが重要と考えており、地域包括支援センターを中心とした相談支援体制のより一層の強化を図ってまいります。</p>	無
45	<p>第8期介護保険事業計画で記載されていた低所得者への配慮についての施策は、第9期の計画でも継続されるのでしょうか。</p>	<p>低所得の方への介護保険料や介護サービス等の利用料の負担軽減は、第9期介護保険事業計画においても継続して実施します。</p> <p>ご意見を踏まえまして、上記内容を計画書の第4章に記載いたします。</p>	有

## 第5章 計画の策定過程と推進体制

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
46	組織を横断して幅広い視点から意見を聴取すると、連携部局の名が連ねられていましたが、その中に教育委員会がありませんでした。教育委員会も入るべきだったと思います。	教育委員会は、主に生涯学習課と意見交換を実施しており、連携部局にも記載しています。	無

### その他

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
47	広報手段として市ホームページや広報うじ等に記載されているが、新たに春夏秋冬の四季に高齢者宅へ届ける等二重の案内をした方がより徹底されると思います。	No.20に同じ。	無
48	介護が必要となる要因には、体力面の弱体も考えられるが、その前の段階として精神的弱体にならない方法としての社会参加、人との関わりを推奨します。個々に学ぶことより、人と混ざる、人と声を出し合う、人を楽しむ、人の笑顔にふれる、そんな場所を多く作ってほしい。	誰もが住み慣れた地域において、健やかに安心して暮らすことができる地域社会を形成するためには、社会的役割と生きがいを持って生活することが大切だと考えております。 本計画においては、皆様が外出や社会参加を通じて生きがいを見出していただくことで、いつまでも生き活きと生活していただけるよう、施策5「生涯現役社会の構築と積極的な社会参加による介護予防の推進」を重点的取組と位置付け、取組を進めてまいります。	無
49	介護保険制度に関して、市民への周知として、読解力、傾聴力が衰えてゆく。70歳以上の人には解り易い言葉とか、長い文章を短く、例えば事例を出しての回答とか方法を考えてほしい。利用する段階になってから係を訪ねて話を聞く…これでは本人にも解らないし、職員が説明、納得してもらうまでの時間と苦勞が多すぎる気がする。	介護保険制度への信頼を高め、持続性を確保するために、施策を市民のみなさまに理解していただくことは大変重要であると考えております。市政だより、「かいごほけんだより」、ホームページ等の活用や、「介護保険出張講座」等を実施することで、介護保険制度についてよりわかりやすく周知・啓発するよう努めてまいります。	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
50	<p>宇治市は地の利に恵まれ京都市は勿論、大阪、奈良、滋賀にも通勤圏内であり、京大の黄檗キャンパスもあり知的な人が多いと聞いています。そこで65才以上の知的で元気な高齢者をボランティアとして使うことで、高齢者も生きがいを持って社会貢献も出来ます。</p> <p>高齢者には前職が教師、金融機関、総合商社、製造業、サービス業その他等で働いた経験を活かして、市内の中小企業の従業員の社員教育を行う。社員教育を行うのに必要な人材を募集して、商工会議所と連携して依頼のあった企業で全従業員を対象に研修を行う。</p> <p>例えば教師や塾での経験者には、小中学生で授業について行けない生徒に補習授業を行う。外国人の子供が日本語の読み書きが出来なくて、学校に行っていない子供もいます。企業に勤めた経験者は自分の専門分野を、社員教育を通して中小企業で活かすことも出来ます。</p>	<p>高齢になっても、特技を活かして社会参加し、社会的な役割を持つことで生きがいある生活を送ることが、介護予防につながると考えており、本計画においては、施策5『生涯現役社会の構築と積極的な社会参加による介護予防の推進』につきましては、重点取組事項と位置付け、取組を推進していきたいと考えております。</p> <p>健康長寿サポーターをはじめとするボランティア養成講座なども実施しておりますが、多様な特技を持った高齢者の方々が、多様な分野で活躍いただけるための支援についても、一層取り組んでまいりたいと考えております。</p>	無
51	<p>高齢者が生きがいを持って元気であれば、保険給付費の支出も大幅に減少し企業が発展すれば税収入も増えます。財政が不足すれば計画されている福祉・介護計画は絵に描いた餅みたいなものです。高齢者を支援するだけでなく、ボランティアで使い道を考えてはどうだろうか。</p>		
52	<p>80才以上の独居老人に、何かあった時に利用できるシルバーホンを無料で貸し出しできるように企画していただきたい。</p>	<p>宇治市が実施する緊急通報装置（シルバーホン）の設置事業は、宇治市内に住所を有する65歳以上のひとり暮らしの高齢者又は65歳以上の高齢者で未成年者・重度の心身障害者・ねたきりの配偶者等と同居している人で、本人及び世帯の生計中心者が所得税非課税の場合は自己負担なく設置することが可能です。</p>	無
53	<p>居住地の地域包括支援センターの具体的な支援や役割についての勉強会を催していただきたい。</p>	<p>地域包括支援センターでは、地域で出前講座を実施しています。詳しくは、お住いの地域包括支援センターにお問い合わせください。</p>	無



No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
54	資料編にでもよいので、語句説明・用語などを掲載してはどうか。「エビデンス」「アウトリーチ」「ICT」等特に横文字の意味がよく分からない。	専門用語等の難解な用語につきましては、計画書発行の際に資料編に用語集として説明書きを掲載する予定です。	無
55	類似した用語の読み分けがしづらい。自習による判別が必要と感じました。		無
56	専門分野は難解で、用語からの学習が必要と痛感しました。		無
57	第8期の計画には各センターの取組内容が紹介されていたのに、今回の計画では掲載されていないのはなぜですか。	各地域包括支援センターのご紹介につきましては、初案には掲載しておりませんが、計画書発行の際に資料編に掲載する予定です。	無
58	第8期の計画策定の際は、パブリックコメント募集後、市民の意見に対する宇治市の考え方を説明会で丁寧に話していただきました。今回も同様の説明会が実施されることを希望します。	第8期計画策定時も、パブリックコメント募集後には説明会は実施しておりません。今回も説明会は実施いたしません。いただいたご意見に対する宇治市の考え方については、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会や市議会においてご報告させていただき、他、市ホームページにて公開いたします。	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
59	<p>第9期介護保険計画を読んで、サポーターとして関わっているから近所の人より少し理解できているけれど、関わってなかったなら知らない、関われない、関わらない、ということになるのではないかと思います。理解するためには、市民の方々に関心を持ってもらうことで、宣伝が必要だろうと思います。伝える方法は、「宇治市広報だより」を活用して、宣伝をしていただきたいです。それを見て、自発的に外に出て行くことによって、その人自身の生き方をより能動的に捉えることができ、そしてより深いものが伝わるのではないかと考えます。</p> <p>包括支援センターの役割（気軽に相談に行ける場所）と区分（小学校校区で分かれていること）が判りにくいので、これも「広報だより」で、宣伝してほしいです。</p>	<p>本計画においては、施策を市民のみなさまに理解していただくことが目標達成のために必要不可欠と考えています。今回初めて初案についてのYouTubeを利用した動画による説明を実施しました。また、市政だより、「かいごほけんだより」、ホームページ等のほか、「介護保険出張講座」等を実施することにより、市民の皆さまの主体的な参画に繋がるような周知・啓発に努めてまいりたいと考えております。</p>	無
60	<p>これからは高齢者、独居者、要介護者、介護費増や医療関係者との連携強化施策に加え高齢者が住みやすい街づくり（交通、買物、交流の場）等も検討することが必要かと思えます。</p>	No.5に同じ。	無
61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の衰えは仕方ないとしても、意欲を失わず人らしい生き生きした生活ができる環境づくり、居場所づくり</li> <li>・良い施設イベントがあっても移動できる交通の便、せめてその日だけでも巡回バス等</li> <li>・手話・点字・手助けの方法得る場所が近場がない</li> <li>・デイサービス等で移動の難しい人たちにも社会参加、コミュニケーションの場を作りたい</li> <li>・障害者も集える場所を作りたい</li> </ul> <p>以上の対策をお願いします。</p>	<p>いただきましたご意見につきましては、庁内に共有いたしまして、本市の高齢者保健福祉行政及びまちづくりを進めるにあたっての取組を検討する際の参考といたします。</p>	無
62	<p>地域包括支援センターを中心とした地域での連携、生活支援体制整備事業が認知され、円滑に相談、利用できる体制を整えてほしいと感じました。</p>		

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
63	<p>老々介護のため在宅において介助している家族の不安の軽減、身体的精神的な負担の軽減される体制づくり、在宅医療・介護の普及促進のため医療と介護の連携強化の体制づくりの取り組みの大切さを感じました。</p>	<p>No.61～62に同じ。</p>	<p>無</p>
64	<p>認知症発症しても尊厳のある生活を送ることができる。認知症の兆候を早期に察知し適切な支援ができる体制である。認知症の人、家族が孤立せず在宅でいつまでも生活できる環境の取り組みの必要性を感じました。</p>		
65	<p>年間色々なイベントが実施されていますが、宇治市中心部の施設が多く使用されています。交通の便の悪い地域の方々はどうしても参加しにくくなり、活動の範囲が限られ、活動意欲も薄くなりがちです。（参加したい気持ちはいっぱいだと思います。）公共交通の充実を望みます。</p>		
66	<p>土日の学校など健康づくり講座の場所、回数を増やして欲しい。</p>		
67	<p>広野地域福祉センターにあるトレーニング機器を各福祉センターに設置して欲しい。 パワリハトレーニング週2回3ヶ月送迎付きで受講した後、近くにないのでセルフパワリハが続けられないのがとても残念です。月に数回でも車の送迎でもあればうれしいのですが。</p>		
68	<p>黄檗公園で年一回スポーツフェスを実施されていますが、西宇治公園でも実施して欲しい。</p>		
69	<p>各町内にある児童公園に健康器具を設置して欲しい。</p>		

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
70	<p>身も心も元気なうちに、「高齢者シェアハウス」のような住居があればと考えています。個人のプライベートはしっかり守られ、でも常に他人（住人）と顔を合わせることも食事も皆としても良いし、趣味の事、個人的な事、世間の事、等々を話し合える場所（スペース）のある環境があればどれだけ元気な高齢者が増えることかと思えます。そういった現役に近い元気な人のための「高齢者シェアハウス」が出来ていけば、長い目で見れば行政も高齢者もそれらを支えてくれる若い人たち、事業者の方も皆「Win-Win」になるのではないのでしょうか。</p>	<p>No.61～62に同じ。</p>	<p>無</p>
71	<p>高齢者だけでなく各世代交流の場を作りたいと願います。単発（サークル等臨時）に集合したい時に借りられる場所がない。</p>	<p>交流の場づくりについては、現状、公共施設や集会所などが中心となっておりますが、より身近な場所ですつながりを持つ機会を増やしていくため、公共施設という枠組みだけにとらわれず、民間の空きスペースや空き家など、多様な主体にご協力をいただきながら居場所づくりを進めていく必要があると考えております。</p> <p>居場所づくりについては、生活支援コーディネーターにご相談ください。</p>	<p>無</p>
72	<p>私が関係している、寝たきり予防のための体操などは制度としてはとても良いことで、高齢者の社会参加にもつながりますし、出来ればもっと多くの場所でやっていただければと思っています。高齢者の近くの施設を利用して、もっと多くの場所でやっていただければ、高齢者が参加し易くなります。</p>	<p>介護予防体操等に関する取組につきましては、市が主催するものだけでなく、自主グループや住民主体の通いの場の立ち上げ支援など、高齢者にとってより身近な場所で健康づくり・介護予防の場が提供できるよう支援を行ってまいります。</p> <p>また、社会的役割を持ち、社会に参加することが健康づくりや介護予防につながるという観点から、地域社会と関わりを持ち、活躍し続けることができる生涯現役社会の実現に向けて、地域の皆さまと一緒に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	<p>無</p>

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
73	<p>高齢者が移動しやすいためにも、社会参加し易いために、交通機関（市バス等の路線）を増やすよう要望します。交通手段をできるだけ増やしてほしいと思います。</p>	<p>高齢者の移動の課題については、お住まいの地域やおひとりおひとりの健康状態などによって課題やニーズも多種多様であることから、制度により解決していくのは難しいところがあります。</p> <p>そのような状況の中、地域において住民主体で助け合う仕組みを作ろうと話し合いをされている団体等に積極的に出向き、外出支援、生きがいつくりの支援を実施しており、今後も住民の皆さまと一体となって取り組んでいきたいと考えております。</p>	無
74	<p>成年後見制度の利用に関心がありますが、手続きと運用に困難さを感じます。特に、銀行の出納に簡便さが望まれます。</p>	<p>成年後見制度が適切に活用されるよう、権利擁護に関する制度の周知や、利用の拡大に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。</p>	無
75	<p>認知症にやさしいまち宇治市になおいっそう進んでほしい。一人暮らしの認知症の人が毎日笑って暮らせる町をのぞみます。</p> <p>認知症の家内は宇治市に住んで楽しく生活しております。</p>	<p>認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続け、また、認知症の人とその家族が安心して生活できるよう、「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けて、認知症に関する普及啓発や相談支援体制の強化などの取組を進めてまいりたいと考えております。</p>	無
76	<p>現在、私もボランティアとして専門職（デイサービスの非常勤機能訓練指導員）の立場から各グループへの講師として支援協力させていただいているが、グループへ専門職が介入するニーズは高いと思う。現行は市から年2回の派遣となっているが、ぜひ、グループに対して、外部から専門職派遣に年に数回以上の要望があるのかを調査し、要望がある場合は外部講師料（交通費＋有償ボランティア程度）の補助を検討してほしい。</p>	<p>自主グループ等の活動については、リハビリテーション専門職による介入が必要不可欠であると考えており、今後も積極的な介入により、健康習慣の定着化やフレイル予防の推進に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>また、現在実施しております自主グループに対する活動補助におきましても、リハビリテーション専門職に対する講師謝礼は補助対象となっております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
77	<p>健康長寿サポーターの役割として、町会単位や市内商業施設、各種市イベントや講演会の機会を利用して、「介護予防チェック（基本チェック・握力・片足立ち・5メートル歩行等）」を実施して、ボランティアで参加できるサポーター養成を検討してはどうかと考える</p>	<p>介護予防チェックに関するイベント実施については、健康習慣の定着やフレイル予防の推進のために必要であると考えております。担い手としては専門的な知識や経験が必要となることから、健康長寿サポーターの役割とすることは、現状難しいと考えております。</p>	無
78	<p>我家にも92才の父がデイサービスを利用させてもらっている。まだ自分の事は自分でできるので介護まではいいないが、今後、歩けなくなったりしていくと、88才の母と私とで自宅で介護できるかと不安はある。そのような人達は今後増えていき、介護する側も大変になりそうである。</p> <p>私は調剤薬局で仕事をしているが、病院に受診後、薬局に薬をもらいに来る事がむずかしくなっている高齢者の方が増えてきている。それに伴い、薬局への在宅依頼が増えてきている。薬局も増え続けるのも限度がある。</p>	<p>住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、地域の医療機関や介護関係者等と連携し、切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制を構築できるよう引き続き努めてまいります。</p>	無
79	<p>介護保険を利用するまでの方々、それまでは活発にご自分で動きまわっておられるような方も年を重ねて動く事がおっくうになってきて、自宅でおられるような方の受け皿も必要かと思えます。</p>	<p>高齢者にとってより身近な場所で健康づくり・介護予防を行っていただけるよう、自主グループや住民主体の通いの場の立ち上げ支援などを行っております。</p> <p>今後も、社会的役割を持ち、社会に参加することが健康づくりや介護予防につながるという観点から、地域社会と関わりを持ち、活躍し続けることができる生涯現役社会の実現に向けて、地域の皆さまと一緒に取り組んでまいりたいと考えております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
80	<p>住んでいる地域で居場所があれば、地域の人たちとつながっていただきたいと思います。居場所づくりは自治会等住民団体との連携が必須だと考えますが、自治会の維持にさえ苦慮している現状では担い手不足です。高齢者が担い手になるためには、中心になって運営する専門職が必要不可欠だと思います。高齢者だけだと立ち上げ時はうまく動いても、長期継続は難しいと思います。</p>	<p>住民主体の居場所づくりについては、見守り等が必要な方に対して、できる人が、できることを、できる範囲で実施するということが重要であると考えています。担い手の中心が高齢者であるため、恒常的な取組としていくことは困難かもしれませんが、少しでも運営を継続できるよう、市は、生活支援コーディネーターとともに、立上げ支援だけでなく、活動継続支援も実施しています。</p>	無
81	<p>市役所近辺に出かけるための移動手段が少ないと思います。文化センター、生涯学習センター、市役所などへのアクセスが改善されればイベントなどへの参加が可能になります。</p>	<p>市役所周辺へは、JRまたは私鉄の各最寄駅から、バスまたはタクシーが運行されておりますので、ご活用いただきますようお願いいたします。</p>	無
82	<p>市で開いていただいている講座などは参加希望があっても他の活動と曜日が重なった場合は参加できません。同じ内容の講座を曜日、場所を変えて開いていただけないでしょうか。</p>	<p>複数回実施可能な講座等については、極力場所を変えて、様々な地域の方にご参加いただけるよう、工夫をしております。開催回数に限りのあるもの、講師等の日程調整を優先して日程を決定しているものについては、ご希望に添えない場合もございますので、ご了承願います。</p>	無
83	<p>介護保険の出張講座があるのを知りませんでした。詳細を広報していただけないでしょうか。</p>	<p>市政だより、「かいごほけんだより」、ホームページ等により、「介護保険出張講座」の実施等、各種施策について周知・啓発に引き続き努めてまいりたいと考えております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
84	<p>当事者・家族が困っていることを探っていき、支援（というかアシストをする）できる人の集団を活かすシステムができないかと思っています。</p>	<p>ご意見のとおり、住み慣れた地域で、その人らしく生活し続けるためには、介護保険サービスだけでなく、介護保険サービスを受けていないときに、地域とつながりを持ちながら生活を続けられることが、重要であると考えており、そのような場づくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p>	
85	<p>認知症カフェもれもねいど事業や認知症支援センターほうおうなどで行われていますが、当事者・家族・支援者が主体で運営できるカフェ機能のある拠点があれば、もっと多くの人が関心を持たれると思います。そこから一つのニーズを見つけ、必要な人が必要な人のところに赴くことや情報のキャッチが速やかにでき、関係機関に結びつけられると思います。</p> <p>まちかどにそんなカフェがあれば、不安を抱えた当事者・家族も入りやすく、初期支援につながり、進行防止にも役立つのではないのでしょうか。</p>		無
86	<p>現状の認知症の人が（認知症だけでなく）介護保険サービスを利用していたとしても、それだけでは足りないことが多いと感じます。介護保険である程度必要なサービスは受けられても、人はそれだけではその人らしく生活するのに不十分です。ヘルパーが食事を作っても本人の分だけ、買物も生活必需品のみ、ではいさどりある本人らしい生活の質の担保は出来ていないと思います。生活の質がメンタル面も含めて担保され、維持向上することで認知症の進行防止にはプラスに働いてだけでなく、更にその人らしさを保ちながら在宅生活を長く過ごせることに繋がると思います。（その結果、介護保険料の削減にも繋がるのでは？）</p>		無



No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
87	<p>介護保険サービスの隙間を埋めるような別仕立てのサービスが必要であり、実際当事者・家族からもそういった声は多く聴きます。</p> <p>利用者・支援者お互いが納得できる料金・賃金でサービスができないだろうか？と考えてきました。しかし、支援者の賃金・利用者の利用料双方がある程度納得できる金額による収支だけでは活動そのもの、事業自体が継続できないと思われる。（何か活動する時に必要な「人・物・金」のうち「金」の工面が一番大変だと思います…。）</p> <p>それでもこういったサービスは今後、認知症の人たちが、社会参加や役割を持つために必要性があるのではないのでしょうか。宇治市ではこういったサービスの創設はできないのでしょうか？またはこういったサービス主体への支援ができませんのでしょうか？</p>	<p>認知症の方々が、生きがいや希望を持って暮らしていくために、身近な場所での活動に、できる範囲で参加していくことが必要だと考えております。そのためには、社会全体が、認知症について正しく理解し、深められる土壌づくりが必要であると考えております。</p> <p>ご意見のとおり、介護保険サービスではケアできない部分につきましては、地域住民や民間事業者などによる「地域の支え合い仕組みづくり会議」において、安心して住み続けられる地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが、地域とともに考える体制を整備しております。</p>	無
88	<p>考え方の基本は、「認知症当事者への、その家族への、また支援者への三者相互間のアシスト」です。困っている認知症の人への支援は当然ですが、家族も家族としての困りごとや不安もあります。支援者（れもねいだけだけでなく、専門職、企業、学生、地域の人等）も生活や仕事で何かしら困ることは多々あります。例を挙げると</p> <p>◆高齢者が大型ごみなどの処分をするに当たり人手を頼みたい時、認知症があっても荷物運びなど一緒に出来ることがある。認知症の人だけでは心配なら、れもねいなどの同行者がアシストする。</p> <p>◆企業で認知症当事者に合った作業を頼みたいがどうしたらいいかわからない時、障がいの人が働くときのジョブコーチのような存在があれば企業の人でも頼んでみようと思えるかもしれない。</p> <p>◆デイサービス事業所で利用者が体調不良になり、すぐに家族が受診同行できない場合に同行出来る支援があれば家族もサービス事業所もケアマネも助かる。</p> <p>そういったアシスト制度のような仕組み（支援してほしい人・支援したい人をコーディネートする）はできないだろうか？</p>	<p>宇治市では、認知症を「自分のこと」として捉え、市民一人ひとりが認知症を正しく理解し、相手を思いやるやさしさを持って、自分のできるアクションを起こしていく取組を目的とした宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど”の取組を進めています。その中で、企業や団体等に対し、れもねいだーの養成に取り組んでいるところです。</p> <p>ご意見につきましては、今後の取組の参考といたします。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
89	<p>認知症の人だけでなく家族・支援者等周囲の人が同じ位置・立場でお互いに助け合う・助けられ合う共生社会作りが宇治市から発信できないかと思えます。認知症状が出ても社会との繋がりや役割を持ち、仲間ができ、この先への不安感がなくなることで進行が緩やかになると確信します。「認知症」は誰でもが避けて通れない課題を孕んでいる自分事です。啓発やキャンペーンなども大切に意味もありますが、人を相手にする実践が広がることは更に早道のように思います。</p>	<p>認知症の方々が、生きがいや希望を持って暮らしていくために、身近な場所での活動に、できる範囲で参加していくことが必要だと考えております。そのためには、社会全体が、認知症について正しく理解し、深められる土壌づくりが必要であると考えております。</p>	無
90	<p>「住み慣れた地域において、安心して暮らすことができる環境づくり」のひとつとして定期巡回・随時対応型訪問介護看護や、少人数の通所介護が増えることを望む。</p>	<p>定期巡回・随時対応型訪問介護看護や地域密着型通所介護をはじめとした地域密着型サービスの見込み量につきましては、これまでの利用実績等を総合的に勘案し、推計しております。      今後も、有用に利用していただけるよう働きかけるとともに、利用実績やニーズ調査を踏まえ、整備の必要性について検討してまいります。</p>	無
91	<p>生活上、できなくなった所、支障をきたす内容のケアも大切だが、「生きがい」「社会参加」など、その人の残っている出来ることに目を向けたケアプランをたててくれるケアマネジャーを増やして欲しい。</p>	<p>住み慣れた地域で、健やかに、生きがいを持って生活していくためには、介護サービスを受けていない時間で、どのような生活をするのが重要になります。      身近な地域でつながりを作ることができる資源を掘り起こすとともに、その資源を活用して、ケアプランの作成をすることができるよう、ケアマネジャー等に対する情報発信にも力を入れてまいりたいと考えております。</p>	無
92	<p>地域共生社会の現実のためには、トップダウンではなく、ボトムアップの取り組みを希望する。</p>	<p>地域住民が主役の取組づくりにあたりましては、行政からの一方的な提案では、地域に寄り添った持続可能な取組となっていくことは難しいと考えております。      宇治市では、地域の課題や、地域の場所や人などの資源を活用した取組を、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターが、地域の住民のみなさんや民間事業者とともに考える場、話し合いの場を持っております。</p>	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
93	<p>宇治市の85歳以上の人口は今後増加し続けるということ、そして高齢者の一人暮らし世帯、夫婦のみの世帯が令和2年で27.3%あることが判りました。高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができる環境づくりが本当に必要と考えています。また、健康寿命を伸ばすために、生きがいを持って暮らせる環境づくりも大切と考えます。</p> <p>2019年に「公民館の今後のあり方について」案が出されましたが、公民館は社会教育施設ですので、人づくり、仲間づくり、まちづくり、文化振興の拠点として各地域に必ず設置し、専門の職員も配置していただきたいです。</p>	<p>高齢になっても、特技を活かして社会参加し、社会的な役割を持つことで生きがいある生活を送ることが、介護予防につながると考えており、本計画においては、施策5『生涯現役社会の構築と積極的な社会参加による介護予防の推進』につきましても、重点取組事項と位置付け、取組を推進していきたいと考えております。</p> <p>また、その活動における拠点については、公民館等の公共施設に限らず、ご自宅や公園、お近くの民間事業者の空きスペース活用等、より身近な場所で、身近な人と、多様な拠点づくりを支援してまいりたいと考えております。</p>	
94	<p>宇治市に転居して3年になります。転居後サークル活動に参加させていただく中で、たくさんの方々(高齢者)とのご縁をいただき、今現在もサークル活動を続けています。その中で、公民館でも数多くの高齢者の方々が中心となり、活動されている事を知り大切な場である事を常に感じています。それぞれの地域にある公民館は、地域内外問わず、老若男女の人達にとっても大切な交流、学びの場となっていると思いますので、今後も公民館という場が存続し続けていく事を切に願っています。</p> <p>年々高齢者が増えると共に、支援する側、される側又、外出できる方や自宅や施設内での生活をされる方など、様々な状況になると思います。が、ひとり(孤独)にならないよう、コミュニケーションが取れる場所を作り、安心安全に楽しい時間を仲間と共に過ごせる、通える(自宅や施設からでも送迎をしてもらえる)場を、地域に作り、生きがいとなりそれが健康寿命に繋がっていければと思います。その中で、様々な方達との交流が出来る事も大切だと思います。外出出来にくい方(特にひとり暮らしの方)には、地域や専門職の方々が定期的に声掛けや訪問などを通して接する機会を作っていく事も大切だと思います。宇治市民の幸せを切に願います。</p>		無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
95	<p>公民館の閉館が検討されているとは知りませんでした。これに端を發した2019.11.23“公民館の今後の在り方についての質疑応答”はネットで検索して確認できましたが、その後の経過が明確に分からない。</p> <p>公民館利用は、高齢化社会の中で、活動の場や居場所づくりに果たす役割も大きいと思いますので、敢えてここに記述させていただきます。</p>	No.93～94に同じ。	無
96	豊富な内容の基本計画と基本施策の策定に時間と労力を費やし過ぎて、具体策の実践と進捗状況のチェック、更なる改善等が十分できるのか疑問をもちました。	今回の計画においては、更なる取組の見直しに注力できるよう、第5章の「2. 計画の推進体制」の、戦略シートにおいて、各種取組の活動指標、中間成果指標、最終成果指標を設け、一括的な評価をしてみたいと考えております。	無
97	私が昨年度から広野公民館を利用（久里古教室受講）したきっかけで、第9期の計画とか公民館閉館問題のチラシを目にしましたが、公民館を利用していないとこれ等に気づくこともありません。もっと市民が知る方法も考えるべきだと思います。私が看過しているのかもしれませんが、私達の情報源である広報「うじ」にこういったことが掲載されているのでしょうか？	<p>本計画の策定にあたりましては、推進協議会の開催やパブリックコメントの実施に係る周知を市政だよりに掲載しております。</p> <p>また、本計画策定後、計画の概要につきましては、市政だよりと同時に配布いたします、「かいごほけんだより」におきまして、広く全戸に周知する予定としております。</p>	無
98	<p>私は今自治会の役員をしておりますが、市との連携は殆ど感じられません。年3～4回の募金活動くらいです。自治会の存在意義も問われる中、もっと保健福祉計画や施策の周知に活用できる、すべきと思います。</p> <p>支援や介護を受ける状態になってから、計画や施策を知るより、そうならないように、なる前に知って活用したいです。</p>	<p>自治会の活用につきましては、自治会が組織されていない地域があることも踏まえまして、計画策定・推進にあたっての情報提供や周知につきましては、市政だより、「かいごほけんだより」に掲載しております。</p> <p>また、若い世代への周知も重要となってまいりますことから、市公式LINEや市ホームページなど、様々な媒体を活用して情報発信をしてみたいと考えております。</p>	無
99	今まで目に触れたことのない「高齢者保健福祉計画」を1～2回読んだだけでは、意見を提出するほど理解はしていませんが、今後とも十分検討された保健福祉計画と施策の、より周知と実践を期待します。	今後も、宇治方式地域包括ケアシステムの推進に向け、関係機関等と連携して全力で取り組んでまいりたいと考えております。	無

No.	意見	宇治市の考え方	修正の有無
100	<p>“健やかに生きがいを持って安心して暮らし続けられるまちの取り組み” についての実感が殆どないです。</p> <p>〈道路整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 道路、歩道に関しては、地域に格差がありすぎる。</li> <li>• 案内板、横断歩道等の文字や線が見づらい。</li> <li>• 歩きやすい歩道が高齢者の社会参加には必要だと思えます。</li> <li>• 市役所、福社会館、うじ安心館、生涯学習センターは直通で行けるようにしてください。</li> </ul>	<p>高齢になっても住み慣れた地域で安全に暮らしていただくためには、福祉に関するソフト面だけでなく、道路等のハード面の整備も不可欠であると考えております。特に交通バリアフリーにつきましては、順次取り組んでいるところでございます。</p> <p>宇治市道におきまして、道路整備、歩道の整備等のご要望は、道路建設課へ、案内板や横断歩道の線が消えかかっておりましたら、維持課へ、それぞれお問い合わせ願います。</p>	無
101	<p>養成講座開催場所が、ほぼ同じ場所なので、市内各地で開催していただきたい。参加したくても移動手段が、限られている。（参加しづらい）</p>	<p>すべての地域にお住いの方から、市役所本庁舎がアクセスしやすい場所ではないことを踏まえまして、各地域への出前講座や、養成講座の地域開催も実施いたしております。</p> <p>また、今後は、広く多くの方にご参加いただけるよう、オンライン開催（現地とのハイブリッド開催）や見逃し配信も検討してまいりたいと考えております。</p>	無
102	<p>近くの集会所で地域の方対象に教室を開催しようと思ってもボランティア要員も少なく高齢化しています。</p>	<p>市は、生活支援コーディネーターを設置し、地域における取組の立ち上げ支援を実施しておりますので、ボランティアの仲間のコーディネートもご相談をお受けいたしております。</p>	無
103	<p>計画(初案)の説明について、従来の説明会の開催にかえて、ユーチューブの動画により、実施されたことは、良い取組みであった。</p> <p>【同様のご意見計5名】</p>	<p>本計画より、市民のみなさまに施策をご理解いただくことを内部の目標としており、この計画（初案）に関する動画の配信につきましては、より多くの方知っていただけるよう、作成いたしました。パブリックコメント期間中の1か月間で約270回再生されたところです。</p> <p>今後も、様々な手法により、市の施策を知っていただけるよう、工夫を重ねてまいりたいと考えております。</p>	無
104	<p>誤字・脱字等の指摘 【計18件】</p>	<p>修正いたしました。</p>	有